

第45回学会大会開催にあたって JSLRS 第77号、Dec. 2015

～ Leisurability と Workability のバランスのとれた発揮こそ

好ましい“ワークライフバランス”の具現化への道～

日本レジャー・レクリエーション学会 (JSLRS)

会長 鈴木 秀 雄

(関東学院大学人間環境学部教授, Ph.D.)

日本学術会議登録団体である本学会 (JSLRS) も、創設後、既に半世紀を越える歴史とともに、本年は第45回学会大会を武庫川女子大学のご協力を得て開催することとなりました。

大会テーマを「レジャー・レクリエーションのミッション」とし、基調講演では「レジャー・レクリエーションに求めるもの、求められるもの～福祉・教育・地域活動の視点から～」[築山 崇氏 (京都府立大学学長)] が計画され、シンポジウムでは、「地域が生き活きするレジャー・レクリエーションの可能性」「スポーツと well-being」「看護におけるレクリエーション」「地域における高齢者へのレクリエーション支援」「地域におけるレクリエーション協会の役割」が各シンポジストにより活発に討議されます。

如上の、大会テーマ、基調講演、シンポジウムで、それぞれのキーワードにもなっている“L&Rのミッション”“L&Rに求め求められるもの”“地域の活性化”“新たなスポーツ観”“看護とL&R”などを俯瞰すれば、Leisurability と Workability の好ましい発揮を中心とした“家庭、地域、職域におけるワークライフバランスの重要性”が見えてくる。ワークライフバランスとは、家庭・地域・仕事のバランスを重視し、多様な生き方や働き方を互いに理解し尊重しあう社会の実現を指向するものである。仕事にやりがい (責任) を持ち、生活に生きがいを持って、生き活きと家庭、学校、地域、職域で暮らすことに他ならない。少子高齢化社会や男女共同参画社会にあつて、ワークライフバランスを保ち、Leisurability (余暇能力) の発揮により、生活の中に有効な Leisurization (余暇化) を図っていくことが大切である。

Leisurability とは、Leisure-oriented (レジャー中心主義) でもなければ、Leisureholic (道楽三昧のようにレジャーに溺れているレジャー中毒) でもなく、適正なレジャーを享受することを意味する。翻つて、Workability とは、Work-oriented (仕事中心主義) でもなければ、Workaholic (家庭や自身の健康をなおざりにしてまで、仕事をやりすぎる仕事中毒) でもなく、仕事にやりがいと責任を持って取り組みながら働くことを意味している。Workability と Leisurability の発揮により、家庭や地域での生活、自己啓発などのプライベートな領域 (Personal Life) も充実させることに繋がっていく。

日々、忙しいからと成すべき事柄を諦めることなく、Workability と Leisurability により、生活形態を変えていくきっかけを作ることも重要である。“諦める”ということは、出来ないのではなく、そのことを“やらない”と決めることに過ぎない。生活の全てを一気に変えることは非常に難しいが、今できる範囲の努力で、ワークライフバランスを熟考したいものである。

この学会大会の、大会テーマ、基調講演、シンポジウム、を通して、“Leisurability と Workability のバランスのとれた発揮”そして“好ましいワークライフバランスの具現化”についても積極的な議論を交わしていただけたらと願っている。

多くの学会員、興味・関心をお持ちの皆さんの参加を武庫川女子大学でお待ちしております。